

## 信用格付を付与するために用いる方法の概要（金融機関—保険会社と不動産投資信託を除く）

フィッチの銀行／金融機関又はその持株会社の発行体デフォルト格付（IDR）は、銀行／金融機関の単独の信用力と潜在的な支援の双方が考慮される。銀行／金融機関の存続性格付（VR）は、固有のプロファイル、すなわち単独の信用力を表している。また、必要な場合に外部支援を受ける蓋然性を、銀行の場合は政府サポート格付（GSR）又は株主サポート格付（SSR）、銀行以外の金融機関の場合はサポート格付及びサポート格付フロアー（サポート格付等）に反映している。銀行／金融機関単独の信用力のみに基づいた格付（VRによって表される）、または、外部支援の蓋然性のみを考慮した格付（GSR、SSR、またはサポート格付等）を決定し、これら二つのうち高い方を長期 IDR として付与することが一般的である。

銀行の VR の評価に際しては、まず事業環境を評価し、これにその他 6 つの主な格付決定要因（KRD）の評価が反映される。そのうち 2 つは定性的なもので（事業特性とリスク特性）、4 つは財務的なものである（資産の質、利益及び収益性、資本基盤及びレバレッジ、資金調達及び流動性）。これらの KRD のスコアに所定のウェイトをかけてインプライド VR を算出し、分析的判断に基づいて調整を行い、最終的な VR を導き出す。

銀行以外の金融機関の VR の評価に際しては、事業環境、会社概要、経営及び戦略、リスク選好、財務特性という 5 つの主要要素が考慮され、各要素はさらにいくつかの構成要素に分解される。

フィッチは通常、より信頼性の高い支援源と考えられるものに応じて、GSR 又は SSR のいずれかを（またはサポート格付等を）付与する。これらの格付は、銀行／金融機関が必要な場合に所在国の政府当局又は株主のいずれかから特別な支援を受ける蓋然性についてのフィッチの見解を反映している。フィッチは、特別な支援を提供する能力及び支援性向について、いくつかの KRD を考慮しながら双方を評価している。

銀行／金融機関の長期債務格付は、個々の債務がデフォルトする蓋然性（又は「債務不履行」リスク）の評価と、デフォルト／債務不履行時における債権者の回収見込みの見解を織り込んだものである。

銀行／金融機関の無担保一般債務の格付は、通常、当該金融機関の長期 IDR と同水準になるが、劣後債務やハイブリッド債務は、通常、債務者の VR を起点にノッチダウンされる。

本格付方法の詳細については、「Bank Rating Criteria」（2021年11月12日付）及び「Non-Bank Financial Institutions Rating Criteria」（2020年2月28日付）をご覧ください。